

奈良・奥大和で輝く人々とその暮らしのエッセンスをお届けする情報冊子

# 深深

この地に根ざし、生きる

## しんしん

### 3号

2022.Spring

### つづく、つながる、ものづくり

受け継がれた技術をまもりながら、  
現代の暮らしに合う品に上手に作り変える。  
吉野杉の透し彫り木工芸家、  
オーガニックコットン製品の工房に  
そのストーリーを尋ねてみました。

Case 01  
[黒滝村] 年輪工房 透し彫り

Case 02  
[御杖村] スガノ工房

奈良・奥大和

奈良・奥大和

500年続く木と人のつながり  
未来を見据えて創る吉野の森。

天に向かって真っすぐに伸びる吉野杉。  
古い木では、樹齢300年を超えるものもあります。  
全国に名高い吉野杉の歴史は古く、  
500年以上前にさかのぼります。  
年輪の幅が狭く、木目がまっすぐに節がない吉野杉は、  
密植を始めたとした独特の育成法により生み出されます。  
「山守」と呼ばれる人たちの、幾代にもわたる  
丁寧な仕事の積み重ねが、今日の森を創りました。  
そして、100年先の未来を見据え、  
吉野の森と人々の交流は続いていきます。  
奥大和では、自然と人のサステナブルな関わり合いが、  
日々の暮らしの中に息づいています。

今号の奥大和の風景 吉野の森

奥大和移住定住交流センター  
**engawa 奥大和移住定住交流センター「engawa」**

地方と都会、若者と大人、移住者と奥大和地域の方々など、いろいろな場所とひとを繋ぐ「engawa」は、奥大和の木工品や家具、特産品などの展示販売のほか、Wi-Fi完備のワークスペース、打ち合わせスペースとして、誰でも利用可能なオープンスペースです。併設の相談窓口は、奥大和での生活や就業、空き家についてなど移住についてのタイムリーな情報が集まっています。

〒橿原市常盤町605-5 ☎0744-48-3019 [時間]9時30分～18時 [休日]土・日曜、祝日、年末年始

発行・問合せ：  
奥大和移住・定住連携協議会  
(事務局：  
奈良県奥大和移住・交流推進室  
☎ 0744-48-3016)

**Local Life**  
in Nara Okuyamato

奥大和移住・定住連携協議会は、奈良県と奥大和地域19市町村で構成されています。

本紙は、奥大和地域に暮らしているの方々に向け、地域で活躍する人やその暮らし、営みなどを紹介し、自らが住む地域の魅力を実感していただくために発行しています。  
※本冊子は2021年12月制作時点の情報となります



## まっすぐ、ウソのない製品作り 肌を優しく包む自然素材の肌着

スガノ工房 御杖村

三重との県境にあり、伊勢本街道の宿場町として栄えた御杖村。木々と田畑に囲まれたのどかな風景の中に、50年以上も続く縫製工房「スガノ工房」があります。営むのは青海叔子さんと、その息子の徳生さん。農業や化学肥料を一切使用せず、また化学処理も施していないオーガニックコットン100%の肌着を仕立てています。「デザインも縫製も、昔から変えていないんです」と叔子さん。染料も漂白剤も使わないコットン生地は柔らかな肌触りと自然な色合いが特徴。シンプルでデザインも相まって、とても優しい印象を受けます。下請け仕事の合間に細々と自社製品を作っていました。が、徳生さんが事業を継ぐタイミングで大きな変化が訪れたそう。「素材も使い心地も間違いなく良いもの」と確

信を得た徳生さんが、東京での展示会に向け自社製品のリブランディングに着手。知り合ったデザイナーの協力のもと、パッケージやホームページをリニューアルし、製品のイメージを一新しました。2021年には東京の商業施設「KITTE」に期間限定で出店を果たすなど、製品の価値が幅広く認知され始めています。「若いお客さんからも、こんなのが届くんですよ」と叔子さんが見せてくれたメールには、肌着の使い心地の良さや感謝の想いが綴られていました。「真面目にまっすぐ使う人のことを考えて50年やってきたことが認められて嬉しい」と叔子さん。新たな道を開いてくれた徳生さんや支えてくれる従業員と共に、これからも使う人を一番に考えて仕事に励みたいと語ってくれました。

①ベテラン揃いの従業員のみなさん。家族同然というだけあって和気あいあいとした雰囲気 ②ブラジャーやキャミソール、タンクトップなど種類も豊富 ③使い心地をイメージしながら厳しく品質をチェック ④製品は一つ一つ丁寧に手作業で縫製される



上 生地はリブ織で肌にフィット。縫い目がない作りで肌へのストレスは最小限  
下 「時代にあった新商品も開発したい」と今後の夢を語ってくれた青海さん親子

## Case 02

御杖村  
スガノ工房

ウエストオーマーを  
首に巻いたり  
使い方は自由です

スガノ工房の製品を  
ふだん使いに

「自分で実際に使ってみて、手放せないことを実感した」という叔子さん。自然素材で肌に優しいものだから、疲れている時や体が弱っている時に使えばその違いを実感できるそう。



### スガノ工房

〒 宇陀郡御杖村菅野 2696  
☎ 0745-95-2175  
HP <https://suganokoubou.com>



## 世代を超えて融合する技とセンス 木への愛情が創る吉野杉透し彫り

年輪工房 透し彫り  
黒滝村



①サンドブラスターで細かい砂のようなガラスを吹きつけ、型を抜くようにして模様をつける ②実家が吉野杉の製材所という花井さん。山口さんと二人、伝統工芸を次代に伝えている ③花井さんが後継者として村に来たのが約8年前。二人の共同制作が今日も続く ④まっすぐで細かい木目は吉野杉ならではの透し抜かれた模様が美しい ⑤山口さんのアドバイスを受けながら細部を調整していく

## Case 01

黒滝村  
年輪工房  
透し彫り



地域の97%を森林が占め、吉野杉の産地としても知られる黒滝村。厳しい環境に置かれている国内の林業において、質の高い吉野杉をブランド化するなど注目を集めています。そんな黒滝村で、吉野杉を使った工芸品・吉野杉透し彫りの制作をしているのが「年輪工房 透し彫り」の山口哲雄さん。「とにかく山が好きやねん」という山口さんは御年90歳。若い頃から山に入り、植林、伐採など山仕事に精通したプロフェッショナルです。そんな山口さんが透し彫りに出会ったのは30年ほど前。廃棄される吉野杉の端材をみて「もったいない、何かできへんかな」と考えたのがきっかけだそう。サンドブラスターという機械を手に入れ、日々制作に打ち込みました。「ええ品を作るなら、木の選びが大事」と山口さん。大好きな木材に触れ、その特徴を語る山口さんの目は子どものように輝いています。山口さんの隣で下絵の切り抜きをするのは花井慶子さん。吉野杉の面皮を使ったアクセサリーやオブジェを制作するアーティストです。制作活動の傍ら山口さんの工房に通い、共同で作品を作っています。「山や木のことを教えて貰いながら一緒に作業をしています」と花井さん。山口さんを「哲兄(にい)」と呼び慕い、自然体で透し彫りの技術を受け継いでいます。二人が作った作品は評判を受け、今では奈良県庁内のエレベーターや知事室に飾られるほどに。山を愛し、木を知り尽くす山口さんの技と、花井さんのデザインセンスが合わさった作品がどんな進化をとげるのか、注目です。

壁飾りや表札も  
作れます!

年輪工房 透し彫りの  
製品をふだん使いに

「ひ孫のためにかわいい動物のイラストで作ることもありますよ」と山口さん。看板やネームプレート、ウェルカムボードなど、さまざまな用途にアレンジすることが可能です。



### 年輪工房 透し彫り

〒 吉野郡黒滝村赤滝 56  
☎ 0747-62-2346

### 黒滝村森林組合

〒 吉野郡黒滝村寺戸 154  
☎ 0747-62-2124  
HP <https://www.k-shinrin.jp/products.html>